

R I N K O K A K U

百年の歴史を、
百年の未来へ。



臨江閣

前橋を代表する歴史的建造物、「臨江閣」。
今回、大規模な改修工事により、明治43年創建当初の姿に復原。
100年の歴史を未来に伝える建物として生まれ変わりました。

photo by 穂坂 昭



臨江閣別館全景

明治43年一府十四県連合共進会の貴賓館として建設された。木造二階建葺瓦葺きの大型建造物である。全体はお寺の講堂を思わせる日本家屋である。

屋根の大棟には、鯉瓦が配され、妻部分には、飾りとして下魚が取り付けられている。一方、中央には創建当初から、避雷針が設置されており、堅樫も創建当初から設置されていた。



構造上の特徴

外観は和風であるが、建物を支える構造には、見えない部分で西洋建築の技術が取り入れられている。

大屋根を支える小屋組にはキングポストトラスの採用や、二階を支える梁には、鉄筋とそれを引っ張るターンバックルが設置され、要所要所でボルトや鉄筋などの西洋技術を積極的に取り入れている。当に近代和風建築の代表的な建物といえる。

二階大広間

180畳敷の大広間である。間口三間の大床を中央に両脇に違い棚、明かり窓をしつらえた典型的な、格調高い書院造りとなっている。

一階の和室も規模は異なるが同様の造りになっている。



改修後の二階大広間

創建当時にはめずらしく、電灯が本格的に建物に設置された。二階大広間にもシャンデリアが設置されていたことが当時の写真からわかる。幸い、当時の器具が二灯残されており、それを元に復元設置した。

昭和30年に設置された舞台も撤去し、創建当時の大広間を再現することができた。

竣工間近の大屋根

今回の改修のメインである大屋根の改修と耐震補強、そして環境整備。それよりも大事なのは外観を変えず、創建当時の姿に戻すという文化財として価値を損なわせない復元整備事業でもあった。

瓦もサイズを変えず新たな瓦を焼き直した。鯉瓦も当初のものを元に新しいものに替えた。避雷針も残っていたものを参考に復元して設置した。



臨江閣ライトアップ

< 作品コンセプト > “光が映し出す100年前の流行色”

臨江閣の竣工当時（明治・大正）の時代や、製糸産業が発展した「糸のまち」前橋を表現する光の演出。—— ライトアップアーティスト 高橋匡太

日時 平成29年8月11日（金・祝）から平成30年2月末日（予定）
点灯時間 8月・9月▶午後6時30分から午後11時まで 10月～2月▶午後5時30分から午後11時まで
※点灯時間は、イベント等により変更となる場合があります。



主催 前橋・光のまちづくり連絡協議会

協賛企業 有限会社稲葉電気 有限会社角谷造園 コーエィ株式会社 株式会社吉田鉄工所 有限会社リョウモウ 有限会社青木造園 有限会社群馬建物 有限会社スタジオビジョン 株式会社竹中工務店群馬営業所 萩原設備株式会社 前橋東照宮

問い合わせ先 臨江閣について▶教育委員会事務局文化財保護課 027-280-6511 ライトアップについて▶前橋・光のまちづくり連絡協議会事務局（前橋市未来の芽創造課） 027-898-6427